

目指せ！持続可能な社会の担い手をはぐくむ教育

持続可能な開発のための教育(ESD) の視点を取り入れた学習指導で学力向上

学習指導要領では、小学校、中学校、高等学校に共通する新しい概念として「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development：以下ESD）」が明確に位置付けられました。

「持続可能な開発のための教育」については、2002年の国連総会において我が国が提案し、採択された「国連持続可能な開発のための教育の10年」に基づき、地球的視野で取組が進められています。さらに、教育基本法の改正で「公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画する態度」や「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度」が教育の目標として新たに規定されました。

このことから学校教育の役割は非常に大きく、「持続可能な社会づくり」を実現するためには、社会を担う一人一人の知識・技能、価値観、生活様式等の変革が必要であり、その根幹を担うのが学校教育です。

この理念は、これまで進めてきた教育の方向性と異なるものではありません。要するに、変化の激しい時代を助け合いながら生き抜く力を身に付けることです。その理念を学校・教師が受け止め、ESDの視点を取り入れた学習指導を展開することで、持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらす児童・生徒が育ち、「生きる力」がさらに育まれ、学力の向上が期待できます。

ここでは、ESDとESDの視点を取り入れた学習指導実践例を紹介します。

ESDを推進するためのポイント

- ポイント① 教育におけるESDの必要性を確認しよう
- ポイント② 「生きる力」と「ESD」の重なりを知ろう
- ポイント③ ESDの授業実践例を見てみよう
- ポイント④ 学習指導要領からESDに関わる
学習内容を読み取るための例を示します



①教育における「ESD」の必要性を確認しよう



地球の現状とESDの教育的意義

なぜ、ESDなの？

- 環境問題 → 地下資源の過剰消費・不要物の大量廃棄・生物生態系の破壊等の解決
- 国際問題 → 国際協調・人権侵害・他民族や他文化の理解不足等の解決
- 社会問題 → 社会秩序の低下・地域社会の結び付きの低下等の解決
- 心の問題 → いじめや暴力行為問題・不登校問題等の解決
- 学力問題 → 知徳体のバランスのとれた力の育成・PISA型学力等の育成

世界的規模での持続可能な社会の構築が叫ばれている

『国連持続可能な開発のための教育の10年』

「持続可能な開発のための教育」は、2002年9月のヨハネスブルグサミットで日本が提唱し、12月の国連総会で採択された言葉です。その席で、2005年から2014年までの10年間で、「国連持続可能な開発のための教育の10年」とすることが決議されました。

そして、目標を決めました。

あらゆる教育や学びの場において取り組むことを決めました。

ESDの視点に立った学習指導の目標

ESDの視点に立った学習指導を展開するにあたって目標が設定されています。

「すべての人が質の高い教育の恩恵を享受し、また、持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれ、環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような行動の変革をもたらすことであり、その結果として持続可能な社会への変革を実現する」こと。

(出典：我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画)

「持続可能な社会づくり」の構成概念

持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだすためには、構成概念を明確にする必要があります。

構成概念

- I 多様性 (いろいろある)
- II 相互性 (関わりあっている)
- III 有限性 (限りがある)
- IV 公平性 (一人一人大切に)
- V 連携性 (力を合わせて)
- VI 責任性 (責任を持って)



持続可能な社会づくりには、これらの多様な概念が含まれており、概念をもとに課題を見だし、解決していくことが地球・人類にとって大切なのです。

(国立教育政策研究所「学校におけるESDに関する研究」(平成2012年3月)から)

ESDの視点に立った学習指導では、下記に示したような能力や態度を求めています。(行動の例)

ESDで重視する能力や態度

①批判的に考える力

- ・他の意見や考え、他からの情報をうのみにすることなく自分なりによく考え、理解し取り入れることができる。
- ・得られた情報をもとに、積極的、建設的によりよい解決策を考えることができる。

②未来像を予測して計画を立てる力

- ・課題に対して、先の見通しや、目的や目標をもって計画を立てることができる。
- ・相手や他人がどのように受け止めるかを考えながら予測して計画を立てることができる。

③多面的、総合的に考える力

- ・色々な角度からものごとを見ることができ、他の事象等と関連付けて考えることができる。
- ・見方や考え方の方向性を変えれば、不要物も資源になると考えることができる。

④コミュニケーションを行う力

- ・自分の考えや思いを簡潔にまとめて他者に発信することができる。
- ・他者の話を聞き、考えや意見を積極的に取り入れ自分の考えを再構築できる。

⑤他者と協力する態度

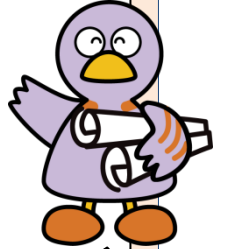
- ・班やグループの仲間と協力したり、励ましたりしながら活動することができる。
- ・相手の立場や状況を考え、前向きな行動を取ることができる。

⑥つながりを尊重する態度

- ・目に見えない様々なものごととつながりがあることを理解し行動できる。
- ・人は一人でなく色々な人や物の恩恵を受けて生きていることが理解できる。

⑦進んで参加する態度

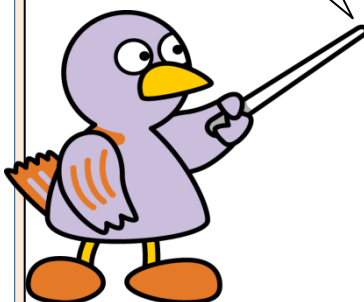
- ・自分の言動に責任をもち主体的に活動に参加することができる。
- ・自分の役割を理解し、進んで他者のために行動できる。



課題を解決しながら、このような能力や態度を身に付け、**持続可能な社会の形成者**としてふさわしい**資質や価値観**を養うことができます。

ESDの視点に立った学習指導で持続可能な社会が構築できる

だからこそ、**ESDの視点に立った学習指導**が必要なのです。



「持続可能な開発のための教育」(ESD)の視点に立った教育とは、児童生徒一人一人が、持続可能な社会づくりに関わる課題を通して多面的、総合的に探究していく学習活動です。(教材とのつながり)

その過程で自分と他者が時間や場を共有しながら互いに学び合い、つながりあうことが大切です。(人とのつながり)

その中で、関心を高めたり認識を深めたりするだけでなく、身に付けた能力や態度を行動に移していくことや生活や社会における実践に繋げていくことです。(能力態度とのつながり)

これこそが、「持続可能な社会の担い手をはぐくむ教育」であり、いいかえれば「持続可能な社会を構築するための人づくり教育」です。

「持続可能な開発のための教育」(ESD)の視点に立った学習指導を行うことで、この美しい地球を将来の世代に繋げられると同時に、実践力のある児童生徒をはぐくみ、児童生徒一人一人に「生きる力」を身に付けられるのです。

② 「生きる力」と「ESD」の重なりを知らう

「持続可能な開発のための教育」(ESD)のための取組は、今まで各学校が取り組んできた、創意工夫を生かした特色ある教育活動の取組と大きく重なる部分があります。

地球や人類の未来を考え、持続可能な社会づくりを目指した活動が、児童生徒一人一人に「知・徳・体」のバランスのとれた力をはぐくむことにつながります。下記の表を比較対照し、「持続可能な開発のための教育(ESD)」が「生きる力」に結びつくことを確認しましょう。



「生きる力」

★「生きる力」とは知・徳・体のバランスのとれた力をはぐくむことです。

○確かな学力(知)

・基礎・基本を確実に身に付け、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

- 思考力
- 判断力
- 表現力
- 課題発見能力
- 問題解決能力

○豊かな人間性(徳)

・自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心

- 協調性
- 自律心
- 感動する心

○健康・体力(体)

・たくましく生きるための健康や体力

- 運動に親しむ
- 健やかな体

参考：文部科学省HPから

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/

ESDの視点に立った学習指導の目標

★「持続可能な社会づくり」に関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付け、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養います。

そのための学習指導として

持続可能な社会づくりに関する問題解決的な学習をすすめることが大切です。また、参加体験型の学習方法や合意形成の手法を活用することが効果的です。

学習指導で重視する能力・態度

- ①批判的に考える力
- ②未来像を予測して計画を立てる力
- ③多面的、総合的に考える力
- ④コミュニケーションを行う力
- ⑤他者と協力する態度
- ⑥つながりを尊重する態度
- ⑦進んで参加する態度



①～⑦にあるような能力・態度を重視しながら授業を展開する事で、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」をはぐくむことができます。

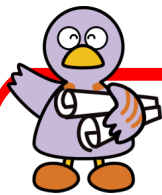
③ ESDの授業実践例を見てみよう

ここでは、ESDの視点を入れた授業実践をするにあたって、学習指導を進める上で留意する点や、指導事例を紹介します。

今までの指導の中に持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだすためには、前述(P.2)した構成概念を参考にし、多様な概念の中から学校や地域・学年や校種に応じた課題を見いだします。そして、その課題の解決に迫る活動の中で、前述(P.3)の能力や態度を身に付け、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養います。



教え方の一連の流れ



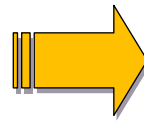
関心の喚起



理解の深化



参加する態度
や問題解決
能力の育成

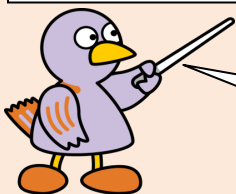


具体的な
行動を促す

①関心、理解度、意欲および態度、問題解決能力等の育成を通じて具体的な行動をうながすこと。

②体験および探究、実践を重視する参加型アプローチとすること。

③指導者（教師）は児童生徒の心の動きや状態を見ながら、実際にプログラムを進行していくファシリテーター役となり、活動の場では児童生徒の自発的な行動を引き出す。



授業実践をするにあたって留意する点をいくつか示します。

☆「つながり」を大切にする。

①教材や教科等の内容を学校・地域社会・世界などの空間的つながりと時間的つながりの視点から考えさせる。

②同じ年代や多様な立場・年代の人々との関わりのなかで体験できる場を用意する。

③実生活や実社会での実践につなげていく。

☆持続可能な社会づくりの構成概念（P②）を基に、課題を明確にする。

☆課題の解決に迫るときに重視する能力・態度（P③）を明確にする。

☆環境や人権に関する文章を読み解き、読解力を向上させる。

☆文章を読み解いたり、話を聞いたりし、課題について知的理解を深める。

☆社会的課題を取り上げたり、体験活動を行ったりすることにより、児童生徒の学ぶ意欲を向上させる。

☆教科横断的な教育活動を総合的な学習の時間で効果的につなぎ合わせ、「知の総合化」を実践する。

☆外部の人材、場や機会等を有効に活用することにより、教師の過度の負担を減らしながらも、質の高い教育を実践する。



指導案の具体的な例です。

中学校 第2学年 総合的な学習の時間

1 単元名 「黒目川の自然と環境」

2 単元について

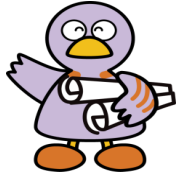
私たちは自然と接することによって、自然の美しさや人間を超えたものに心から感動し、自然を愛するようになってくる。したがって、自然と接する機会をできるだけもつようにし、自分と自然とのかかわり方を深く考えることは大切なことである。中学生の時期は、自然に対する関心が高まるとともに、感受性が豊かに育つ時期でもある。

本学年では、身近な環境問題として、「黒目川の自然と環境」をテーマとして挙げ、生徒が主体的に関わる学習の方途を探ることにした。

本単元でE S Dの視点にたった学習指導を進めるためには、フィールドワークという体験活動を地域の人とコミュニケーションをとりながら、生徒が地域の方や仲間と協力して取り組むように留意することが大切である。また、地域の方との活動を通して、自らが地域社会の一員であることの再認識ができるようにする。

3 単元におけるE S Dの視点

構成概念	重視する能力・態度
I 多様性 川には様々な生物が生息しており、違いがあること II 相互性 生物は、その周辺環境と関わって生きていること V 連携性 地域の方々と協力して調査にあたること	①批判的に考える力 話し合いを通して他者の意見を検討・理解して取り入れる ⑤他者と協力する態度 仲間と協同して作業を行う ⑥つながりを尊重する態度 自分が社会の一員であることの自覚をもつ



単元の目標

本単元では、I・II・Vに焦点を当て、課題を解決させていきます。そこから、重視する能力・態度を身に付けさせます。

本時は、課題を解決しながら、批判的に考える力・他者と協力する態度・つながりを尊重する態度を身に付け、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養うことを目指します。

学習方法に関すること	自分自身に関すること	社会性に関すること
調査活動等に関心をもち、適切な情報収集や、そこから得た情報を主体的に整理・分析し、分かりやすくまとめ、表現することができる。	自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決しながら、他者の理解を図るとともに、自分自身の生活を見つめ直し、学習した内容を実生活に生かそうとする。	身の回りの環境を知るために必要なことを社会人から学ぶとともに、社会人や友人との交流の中で、他者から学ぶとする姿勢をもつことができる。

《E S Dの視点を入れる前の指導案》

6 本時の学習指導

(1) 本時の目標

地域ボランティアの方の協力の下、黒目川を環境を観察することを通して、身近な地域における環境問題について考えることができる。

(2) 本時の展開（通常の学習指導案）

	活 動 活 動	指導上の留意点（○） 評価（◆） 【評価の観点】（評価方法）
導 入	①本時のねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">黒目川を環境を観察することを通して、 「身近な地域における環境問題」について考えよう。</div>	◆課題への学習意欲が高まっている。 【学習方法に関すること】（観察）
展 開	②観察場所へ移動 ③地域ボランティアの方に話を聞く。（諸注意・連絡等） ④フィールドワーク開始 ・地域ボランティアの方と共に川に入り、川に生息する生物や、周辺に生育する植物を調査する。 ⑤地域ボランティアの方の話を聞く（生物と環境の関係について）。 ⑥校内へ移動	○事故のないように安全に配慮する。 ○課題意識をもって、話を聞けるようにする。 ○遊びにならず、自分の課題解決の手立てになれるように留意しながら活動させる。 ○1人で行動することなく、地域ボランティアの方とグループの仲間と協力する。 ◆地域ボランティアの方との活動を通して、より多くのことを学んでいる。 【他者と社会との関わり】 （教師による観察・ワークシート）
ま と め	⑦ワークシートに記入する。 ⑧意見を発表する。	○実際に体験してわかったこと・感じられたことを整理できるようにする。 ○自分の生活の中で生かせることを考えられるようにする。 ◆フィールドワークを通して学んだことを、わかりやすくまとめることができる。 【学習方法】（ワークシート） ○フィールドワークを通して学んだことを意見に取り入れるように指導する。 ◆仲間の意見を聞くことを通して、環境問題について考えることができる。 【他者と社会との関わり】（教師による観察）

《ESDの視点を入れた学習指導案》

	活 動 活 動	指導上の留意点 (○) 評価 (◆) 【評価観点】 (評価方法) ESDとの関わり (★)
導 入	①本時のねらいを確認する。 黒目川を環境を観察することを通して、 「身近な地域における環境問題」について考えよう。	◆課題への学習意欲が高まる 関心の喚起
	②観察場所に移動 ③地域ボランティアの方に話を聞く。(諸注意・連絡等) <i>※人や地域の可能性を最大限に生かしている</i> ④フィールドワーク開始 地域ボランティアの方と共に川に入り、川に生息する生物や、周辺に生育する植物を調査する。 [I 多様性 II 相互性 V 連携性] <i>※参加体験型の手法が活かされている。 ※人や地域の可能性を最大限に生かしている。</i> ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度を育成する留意点を設定している	○事故のないように安全に配慮する。 ○課題意識をもって、話を聞けるようにする。 ※はESDが大切にする「学びの方法」 ○遊びにならず、自分の課題解決の手立てとなるように留意しながら活動させる。 ○1人で行動することなく、地域ボランティアの方とグループの仲間と協力する。 ◆地域ボランティアの方との活動を通してより多くのことを学んでいる。 【他者と社会との関わり】 (観察・ワークシート) ★⑤グループ内の仲間と協力して調査項目を決定し、励まし合い調査活動をさせる。 【他者と協力する態度】 ★⑥地域の方と活動することを通して、自分自身も地域社会の一員であることに気付かせる。 【つながりを尊重する態度】 ○自分の課題解決の手立てとなるような視点をもって、話を聞けるようにする。
展 開	⑤地域ボランティアの方の話を聞く(生物と環境について)。 ⑥校内に移動	
	⑦ワークシートに記入する。 ⑧意見を発表するする。 ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度を育成する留意点を設定している	○実際に体験してわかったこと・感じられたことを整理できるようにする。 ○自分の生活の中で生かせることを考えられるようにする。 ◆フィールドワークを通して学んだことを、わかりやすくまとめることができる。 【学習方法に関すること】(ワークシート) ○フィールドワークを通して学んだことを意見に取り入れるように指導する。 ◆仲間の意見を聞くことを通して、環境問題について考えることができる。 【他者と社会との関わり】(教師の観察) ★①他者の意見をよく検討・理解して取り入れる。 【批判的に考える力】
ま と め		

対応している。数字の「I・II・V」はP.2で示した「持続可能な社会(Society 5.0)」の構成概念の数字に対応している。

赤白抜き数字の①⑤⑥は、P.3で示したESDで重視する能力や態度の例の数字に対応しています。

具体的な行動をうながす



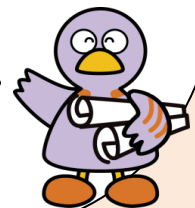
いろいろな研究報告に見られる ESDの視点を取り入れた学習指導の成果

小学校

- 自分たちの生活している地域の自然・環境、社会、歴史、文化についての理解を深めることができた。
- 「探検する」「ふれる」「気付く」「調べる」「まとめる」「発表する」「参加する」「深める」「広げる」「伝える」など、地域とのかかわり方や学び方を身に付けることができた。
- 見て、聞いて、まとめて、自分の言葉で進んで発表することができた。
- 自ら課題を発表する力や自ら行動する力がついた。
- 活動する中で、自分がやらなければならないという責任感が芽生えた。
- 農業体験を通して、農業の大変さと食の大切さに気付き、食物を大切に感謝する心が見られ、地域の方々への感謝の気持ちや作業の大変さを認識することができた。

中学校

- 子どもたちのコミュニケーション能力やプレゼンテーション力も向上した。
- 地域の方々と直接会話をしたり、意見を聞く中で、地域の方々の活躍や苦勞も知り、地域の一員として共に考えていこうとする意欲や態度が見られた。
- 地域に発信しようとする取組ができるようになった。
- 豊かな感性、課題解決能力、表現力やコミュニケーション能力が育った。
- その他の活動にも積極的に関わる生徒が増えた。



ここでもう一度確認します。ESDの理念は、これまで進めてきた教育の方向性と異なるものではありません。環境や平和、人権、福祉などの実践を通して、生命にとって最良の地球環境であったり、幸せな暮らしが続くことを願う思いを育てたり、そのために必要な力をつけることです。

課題を解決しながら、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を身に付けます。その取組の中で必要な能力や態度が、「生きる力」の教育の目標と大きくつながっています。

ESDの視点に立った授業を実践することで、児童生徒一人一人に「知・徳・体」のバランスのとれた「生きる力」をはぐくむことができます。

④学習指導要領からESDに関わる 学習内容を読み取るための例を示します



学習指導要領の総則・各教科の目標や学年の目標及び内容に「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関わる学習目標や内容が多岐にわたり示されています。それらを読み取り、各教科等の授業実践の中で課題を解決しながら、能力や態度を身に付け、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養います。

以下に学習指導要領の総則の抜粋と小・中学校の各教科の目標や内容の例をあげ、ESDと関連している部分を朱書き文字にしてあります。例を基に学習指導要領を見直し、ESDの視点に立った学習指導をしていきましょう。P.2で示した課題を見いだすための構成概念の例をいくつか示します。



総則（一部抜粋）

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、**人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念**を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、**豊かな心**をもち、**伝統と文化を尊重**し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、**個性豊かな文化の創造**を図るとともに、**公共の精神を尊び**、**民主的な社会及び国家の発展**に努め、**他国を尊重**し、**国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性**のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

V 連続性

異なる意見や立場を大切にする。

IV 公平性

差別なく公平公正に努めている。



小学校社会第1 目標

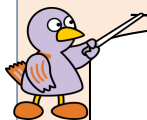
社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、**国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者**として必要な公民的資質の基礎を養う。

第5学年 1 目標

(1) 我が国の国土の様子、国土の環境と国民生活との関連について理解できるようにし、**環境の保全や自然災害の防止の重要性**について**関心を深め**、**国土に対する愛情**を育てるようにする。

V 連続性

地域の人々が協力して災害防止に努める。



小学校生活 第1 目標

具体的な活動や体験を通して、**自分と身近な人々**、**社会及び自然とのかかわりに関心**をもち、**自分自身や自分の生活について考えさせるとともに**、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

II 相互性

人は、人や環境と関わって生きている。



小学校家庭 2 内容

D 身近な消費生活と環境

(2) **環境に配慮した生活の工夫**について、次の事項を指導する。

ア 自分の**生活と身近な環境とのかかわりに気付き**、**物の使い方などを工夫**できること。

III 有限性

資源や環境は限りがあり、有効に使用できる。

V 連続性 互いに協力して問題を解決できる。
VI 責任性 自分の役割を理解し、分担して仕事ができる。



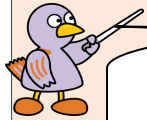
中学校社会〔地理的分野〕 2 内容

(2) 日本の様々な地域 ウ 日本の諸地域
(I) 環境問題や環境保全を中核とした考察

地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連付け、**持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切**であることなどについて考える。

I 多様性

科学技術の進歩が自然環境に与える影響を多面的にとらえることができる。



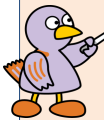
中学校理科〔第1分野〕 2 内容 (7) 科学技術と人間

ウ 自然環境の保全と科学技術の利用
(ウ) 自然環境の保全と科学技術の利用

自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について**科学的に考察し、持続可能な社会をつくる**ことが重要であることを認識すること。

I 多様性

それぞれの国・地域には様々な特徴がある。



中学校音楽〔第2学年及び第3学年〕 2 内容 B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。

イ 音楽の特徴をその**背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解**して、鑑賞すること。

ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び**諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解**して、鑑賞すること。



中学校外国語 英語 3 指導計画の作成と内容の取扱い (2)

イ **外国や我が国の生活や文化についての理解を深める**とともに、言語や文化に対する関心を高め、**これらを尊重する態度を育てる**のに役立つこと。

ウ 広い視野から国際理解を深め、**国際社会に生きる日本人としての自覚**を高めるとともに、**国際協調の精神を養う**のに役立つこと。

VI 責任性

我が国は国際社会の中で重要な役割を果たしている。

(出典:文部科学省 小学校学習指導要領 中学校学習指導要領 平成20年3月)

前述の学習指導要領等の抜粋に示すように、教育活動全体でESDについて取り組むことが理想です。しかし、全ての活動にESDの視点を入れるのはなかなか難しいことです。国内の先進校はもとより、ヨーロッパの国々やアジア・太平洋地域の国々では環境教育に持続可能な開発の視点を取り入れたり、各教科の教材として環境に関する授業を実施する場合にESDの視点を入れている例が多くあります。

一方教科等の授業では、環境教育の他に人権教育、国際理解教育、平和教育、虐待防止等のこどもの人権にかかわる教育、男女差別に関する教育、HIV/AIDS等に関する教育、紛争防止教育等にESDの視点を入れている例が多く見られます。

これらの活動を通しての成果として、計算能力の向上、表現力の向上、リーダーシップ能力の向上、保護者や地域・社会との連携強化等が期待できます。